

## 完了実績報告書

別添資料3	
<b>事業名称</b>	空き家情報集約のプラットフォーム化と共生都市 ～まちが百貨店～構想の推進
<b>事業主体名</b>	特定非営利活動法人ひらた空き家再生舎
<b>連携先</b>	出雲市 平田商工会議所 島根県立大学出雲キャンパス 平田高校
<b>対象地域</b>	出雲市（旧平田市地域内）
<b>事業概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 空き家を利活用するために所有者と利用者をつなぐ橋渡しを行う</li> <li>・ 情報を集約するための拠点を作る</li> <li>・ 今後の町の方向性を地域の方々と定め、共有した上で地域課題に取り組む</li> </ul>
<b>事業の特徴</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 空き家利活用モデル（成功例）をつくって、所有者に処分のアクションを促す</li> <li>・ 空き家でやりたい、使いたい、の中核となり、空き家に対する快情報を発信することで、地域内劇場型空き家対策モデル（自称）で情報が自然と集まる仕組み作り</li> </ul>
<b>成果</b>	空き家相談会とは別に、空き家の処分相談、空き家の情報、空き家を用いた地域課題解決に向けた相談の問い合わせが個人、団体問わず増加 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相談会 相談件数 14 件 内 居住希望 9 件 売却、処分希望 5 件</li> <li>・ その他問い合わせ 利用、居住希望 2 件 処分希望 4 件</li> <li>・ タウンミーティング開催 開催日 令和 4 年 3 月 6 日（土） 来場予定者数 50 名</li> </ul>
<b>成果の公表方法</b>	特定非営利活動法人ひらた空き家再生舎のホームページで成果報告書を公表 <a href="http://akiyasaiseisya.com/">http://akiyasaiseisya.com/</a>
<b>今後の課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用可能な物件の調査、確保から実際に利用、居住希望者へのマッチング</li> <li>・ タウンミーティングの継続による地域内中期ビジョンの策定</li> </ul>

### 1. 事業の背景と目的

出雲市が実施している空き家バンクによって、次の所有者へとつなぐ取り組みは実施しており、登録物件の成約率も高いが、そもそもの空き家の登録が伸び悩んでおり、出雲市内の旧平田市地域にある 600 件の空き家のうち登録数はわずか 6 件に留まる。その他の空き家は手つかずの状態に放置されている。実際、当法人が実施している空き家管理代行を通して、空き家の状態で放置することでの急速な劣化による資産価値の低下を強く実感している。

そこで、空き家の利活用状況について地域内で積極的に発信し、空き家所有者の方に興味関心を持っていただき、相談会を通して所有者の課題を解決するといった好循環を確立することで空き家の利用、処分の促進を図る。

さらにまち全体の向かうべき方向性を市民、各種団体と考え中期的なビジョンを確立し、まちづくり、福祉、観光といった各種分野の具体的な取り組みを定め、それらに付随する場所の確保といった問題に対して空き家利活用という手段を提供することでまち全体の活性化を図り、空き家問題と同時にまち全体に好循環を生み出すことを一層空き家利用の促進を図ることを目的に事業を実施する。

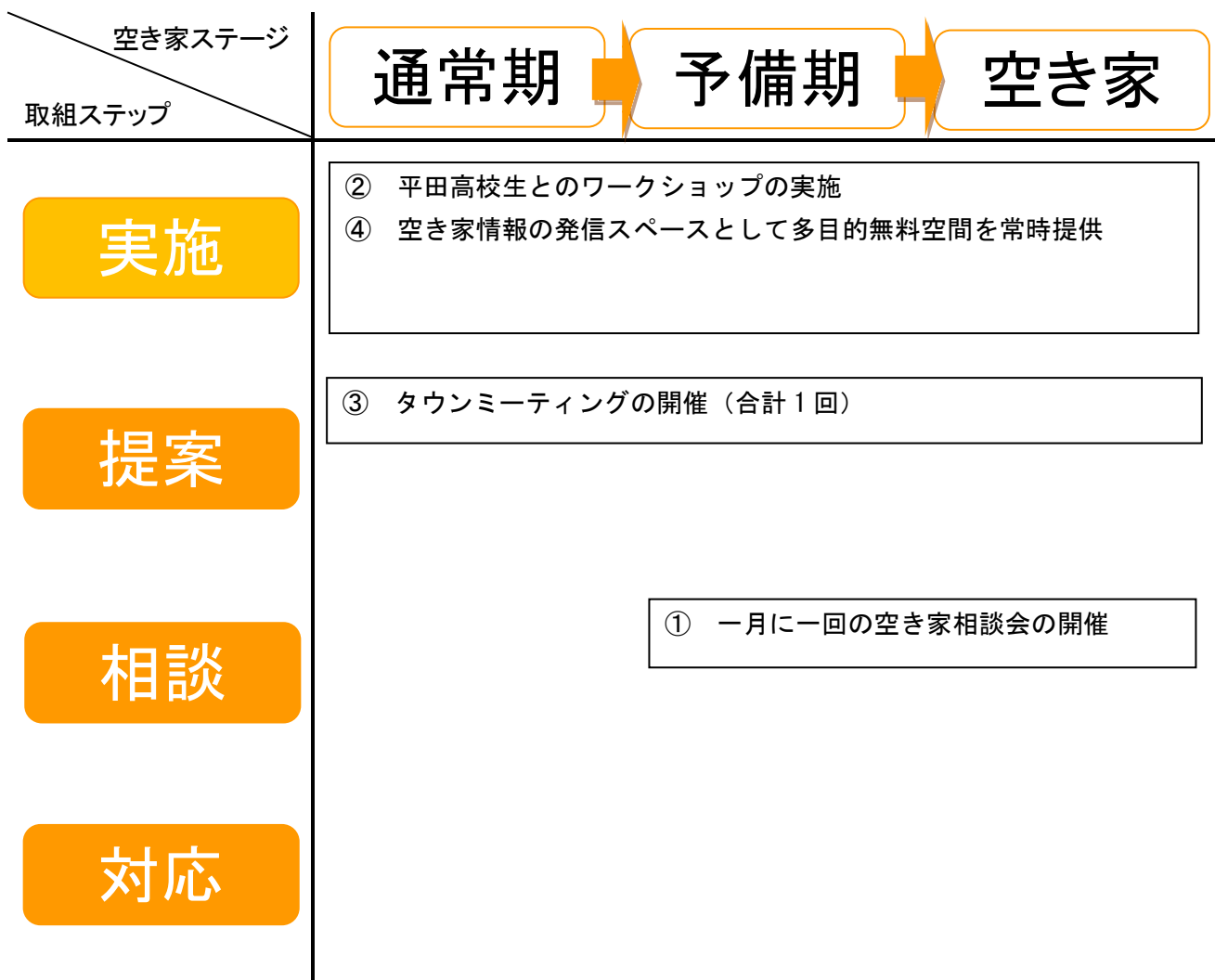
## 2. 事業の内容

### (1) 事業の概要と手順

事業概要は以下の通り

- ① 一月に一回の空き家相談会の開催
- ② 平田高校生とのワークショップの実施
- ③ タウンミーティングの開催（合計1回）
- ④ 空き家情報の発信スペースとして多目的無料空間を常時提供

### ●取組フロー図



●各取組の業務役割分担

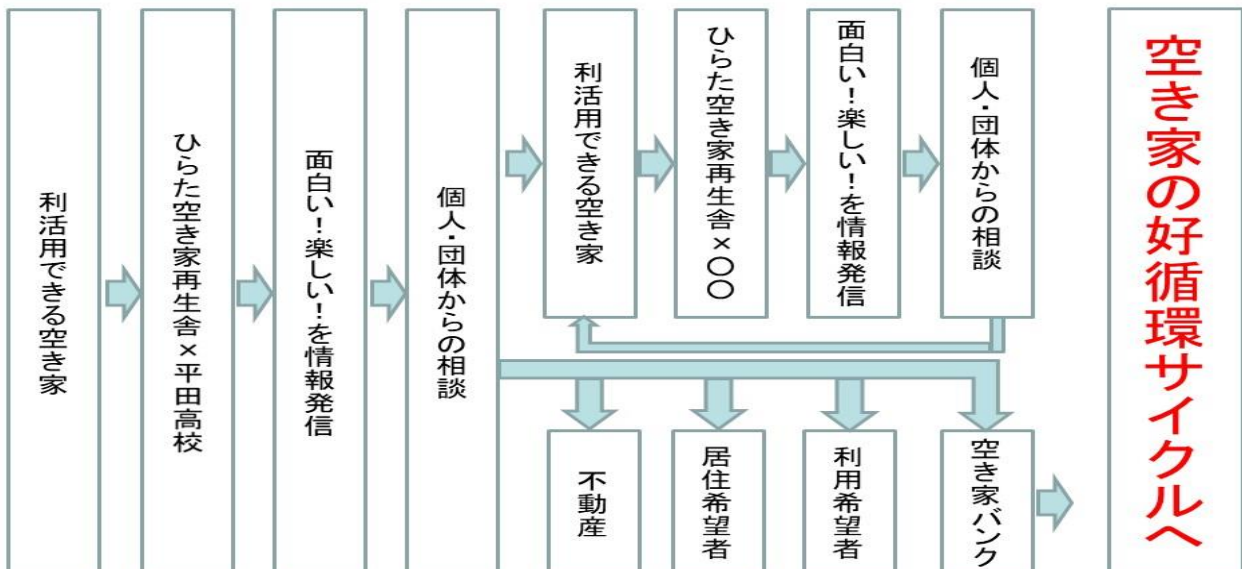
取組内容	具体的な内容（小項目）	担当者（組織名）	業務内容
①空き家相談会	相談会企画・立案・実施 チラシ作成など広報	NPO 法人ひらた空 き家再生舎（吉岡）	毎月開催する空き家相談会の実施に関する基本的な準備から開催までを担う
	情報提供	出雲市（小形）	空き家相談会で上がった案件のうち、行政として必要な議案についての相談、情報提供
	相談会での講演、情報提供	島根県立大学出雲 キャンパス（澤田）	健康に関するセミナーを開催し高齢者の方に相談会への認知を拡げるとともに、産官学での連携を図る。
②平田高校との ワークショップ	ワークショップ企画・立案・実施	NPO 法人ひらた空 き家再生舎（吉岡）	平田高校の学生とともに空き家の利活用を考え、ワークショップ形式の空き家問題解決に向けた取り組みを行う。
	学生との連絡調整	平田高校（長門）	学生と実施主体の当方との連絡調整を行い、ワークショップ開催にあたり必要な事前の意見集約や取り組み内容の取りまとめを行う。
③タウンミーティング	タウンミーティング企画・立案・実施	NPO 法人ひらた空 き家再生舎（吉岡）	タウンミーティング開催にあたり必要な事前調査、開催方法の検討、企画立案などの全般的な役割を担う。
	タウンミーティング企画・立案・実施	平田本町商店街振 興組合	地域住民への呼び込みなどの働きかけや企画へのアドバイスを 行う。
	タウンミーティング企画・立案・実施	（一社）平田青年会 議所	地域住民への案内や当日の設営 など実務を中心に担う。
	地域住民、商工会との連絡調整	平田商工会議所	商工会として会員の理解を得られるように連絡調整役を担って いただく。
④多目的スペースの開放	多目的スペースの維持、 管理	NPO 法人ひらた空 き家再生舎（吉岡）	毎日の管理及びイベント開催などの予約管理

●事業実施スケジュール

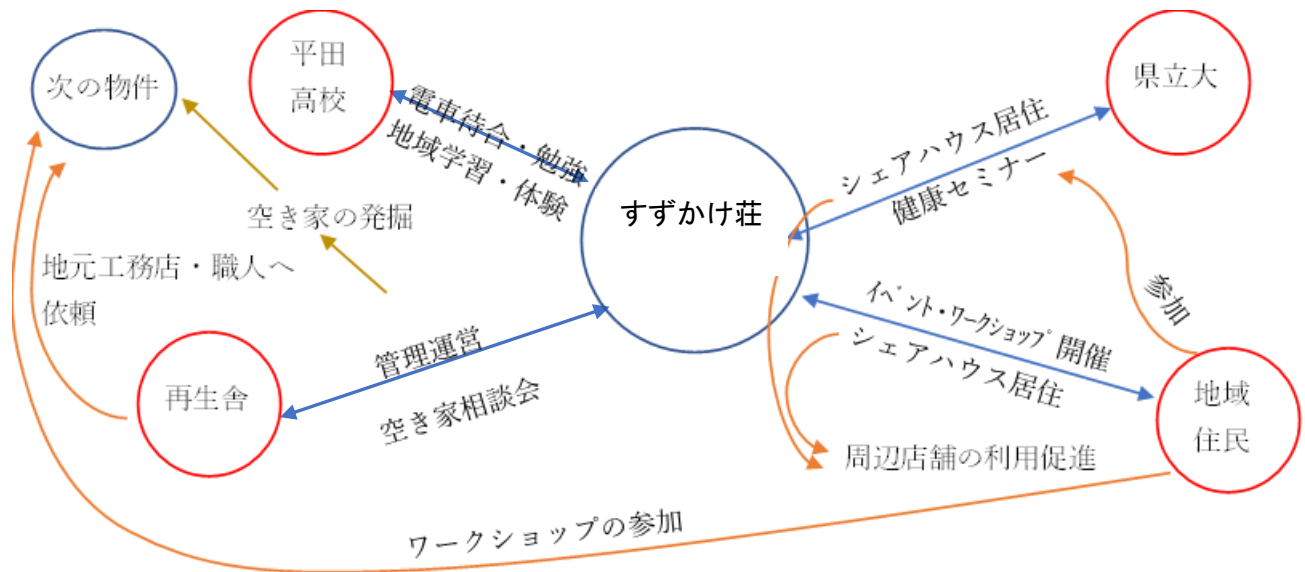
ステップ	取組内容	具体的な内容（小項目）	令和2年度							
			8	9	10	11	12	1	2	3
対応準備	①空き家相談会	相談会企画・立案・実施								
		チラシ作成など広報								
		相談会での講演、情報提供（県立大）		○	○	○	○		○	
		相談会後の情報提供（出雲市）								
対応準備	②平田高校とのワークショップ	ワークショップ企画・立案・実施								
		学生との連絡調整								
準備	③タウンミーティング	タウンミーティング企画・立案・実施				○			○	
		地域住民、商工会との連絡調整								
		タウンミーティングで上がった街の構想に対する実施可能の可否を法整備など各種規制の観点から検討								

【図1 空き家市場活性化に向けた流れ】

当法人の空き家情報プラットフォーム化に向けて



【図2 空き家利活用に向けた拠点づくり】



## (2) 事業の取組詳細

### ① 一月に一回の空き家相談会の開催

9月から1月までの期間、毎月一回、多目的空間を利用して空き家相談会を実施した。実施方法は以下の通り

#### ○開催時間：

10時から12時の2時間

第一回：2021年9月25日（土）10時～12時

第二回：2021年10月24日（日）10時～12時

第三回：2021年11月28日（日）10時～12時

第四回：2021年12月12日（日）10時～12時

第五回：2022年1月9日（日）10時～12時

第六回：蔓延防止措置につき中止

#### ○開催場所：

昨年度平田高校と手がけた多目的スペース「すずかけ荘」

#### ○開催方法：

現地で空き家の売却や処分、利活用希望の来場者をスタッフが対応。問診票を用いて詳細を聴取し、対応が可能な内容については同日に対応、それ以外については連絡先を確認し、後日対応とした。また、行政に問い合わせが必要な情報については、当法人から行政に問い合わせを行った。

#### ○実施結果：

全5回の相談会を開催し、延べ14組の相談受付を行ったが、うち売却や処分に関する相談は5件と少なく、利用、居住希望に関する相談が9件と多かった。このことから空き家の利用に

ついでに興味、関心の高さが伺えたが近隣の不動産屋が抱える不動産情報もお伝えしたが、希望に叶う物件とのマッチングには至らなかった。また、処分希望の物件については中山間地や海岸沿いで需要がなく、空き家の需要と供給については立地の面も配慮する必要を感じた。

その他、行政への問い合わせ事案もあったので、当法人から行政に問い合わせるなど行政との連携も実施。

【写真1 相談会①】



【写真2 相談会②】



【写真3 相談会③】



同時開催「島根県立大学出雲キャンパス看護栄養センター出前講座 Inすずかけ荘」

○実施目的

これまで、高齢の方から空き家情報を提供してもらったことが多かったが、空き家バンク登録件数から見てもわかるように、そもそも手持ちの空き家の処分に対して関心がない高齢者の方が多いため、健康講座を通して相談会自体に来てもらうことを目的に実施した。

○開催内容

第一回 健康セミナー：10月24日（日）10時～11時

「食事と栄養」

講師：健康栄養学部教授、看護栄養センター長 名和田 清子 先生

受講者：7名

第二回 健康セミナー：11月28日（日）10時～11時

「お口のリハビリ」

講師：平松 喜美子 教授

受講者：6名

第三回 健康セミナー：12月12日（日）10時～11時

「認知症」

講師：荒木 さおり 助教授

受講者：5名

第四回 健康セミナー：1月9日（日）10時～11時

「人生会議しませんか」

講師：加藤 さゆり 助教授

※新型コロナウイルス感染拡大のため急遽中止



## ○実施結果

参加者は想定の20名を下回ったが、参加された方からはどの回も大変ご講評いただいた。開催後には自身や家族の健康についての座談会が始まり、その中で単身世帯の方から空き家になったときの不安や、施設に入った場合の空き家処分について相談を受けた。また、会場近隣の空き家についての情報提供を受けるなど、相談会としての参加ではなかったがやはり高齢者との繋がりには今後の空き家の実地調査を行う上でも有効だと感じた。

【写真4 健康講座①】



【写真5 健康講座②】



【写真6 健康講座③】



【写真7 チラシ①】



【写真8 チラシ②】



【写真9 チラシ③】



## ② 平田高校生とのワークショップの実施

### ○実施目的

昨年度から平田地域唯一の県立平田高校と高校魅力化に向けた連携として空き家を含む地域課題について学習する機会があり、昨年度地域内外からクラウドファンディングによる出資を募り、空き家を改修して誰もが自由に利用できる多目的スペースを設けた。その様子を地域のケーブルテレビで情報発信することで空き家の利用についての関心が高まり、地域内でも実際に空き家を利用した店舗をオープンするなど空き家利用に貢献できたため、本年も継続して事業を実施し、地域内での空き家問題に関する意識醸成のために取り組みを実施した。

### ○実施方法

下記回数に渡り、空き家問題全般や空き家の利活用について考える座学からはじめ、実際に利用促進や空き家問題への対応を、学生の視点で考えた内容で実施した。具体的には多目的スペースに誰もが自由に閲覧できる本や備品を設置し、管理が行き届かない空き地を自分たちなりに工夫して対応策を施した。

また、それらの様子をケーブルテレビに取材してもらい地域に発信することで空き家の処分などに対する当法人の認知度を上げ、空き家情報収集の糸口として企画した。

### ○実施日

2021年7月6日(火) 15:20~16:10  
2021年7月20日(火) 13:20~14:10  
2021年8月31日(火) 9:55~10:45  
2021年9月14日(火) 13:20~14:10  
2021年9月24日(金) 13:20~15:10  
2021年9月28日(火) 13:20~14:10  
2021年10月12日(火) 14:20~16:10  
2021年10月26日(火) 13:20~14:10  
2021年11月16日(火) 13:20~14:10  
2021年12月7日(火) 14:20~16:10  
2021年12月14日(火) 14:20~16:10  
2021年12月21日(火) 14:20~16:10  
2022年1月11日(火) 14:20~16:10  
2022年1月18日(火) 13:20~14:10  
2022年1月25日(火) 14:20~16:10

### ○実施結果

地域への情報発信を通して空き家を処分したい希望者から問い合わせがあり、実際に現地調査を行った。現在出雲市空き家バンクへの手続きへ進めるための斡旋と相談会で空き家居住希望者に対しての情報発信の準備を進めている。

また、実際に今回携わった学生からは、空き家問題に対して「テレビで見たり聞いたりしていることを実際に体験して想像以上に大変だった。」「空き家をきれいにすることが面白かった」と様々な意見をもらっており、今後空き家問題に取り組む若い世代の担い手づくりにも貢献できたと感じている。

⇒空き家利用、居住希望2件 処分希望4件

【写真10 平田高校①】



【写真11 平田高校②】



【写真12 平田高校③】





【写真 13 平田高校④】



【写真 14 平田高校⑤】



【写真 15 平田高校⑥】



【写真 16 管理不十分な空き家①】



【写真 17 管理不十分な空き家②】



【写真 18 平田高校⑦】



【写真 19 平田高校⑧】



【写真 20 平田高校⑨】



【写真 21 平田高校⑩】



【写真 22 平田高校⑪】



### ③ タウンミーティングの開催

#### ○実施目的

現在の平田地域の課題としてまちの活気がないことが課題である。具体的には旧市街地の店舗は軒並み淘汰され、僅かに残っている個人事業主の店舗は古くからの地元の方との付き合いで営みは続いているが、多くの地域住民は出雲市郊外の大型ショッピングモールや旧市街地を取り巻く環状線の全国展開の店舗を利用しており他の地域にもれなく衰退の一途を辿っている。

そのような中、出雲市内全体の過去5年間の人口の増減率はわずかに増加しているが平田地域内においては世帯数が増加している地域もあるものの、どの自治会単位においても人口の減少が著しい。

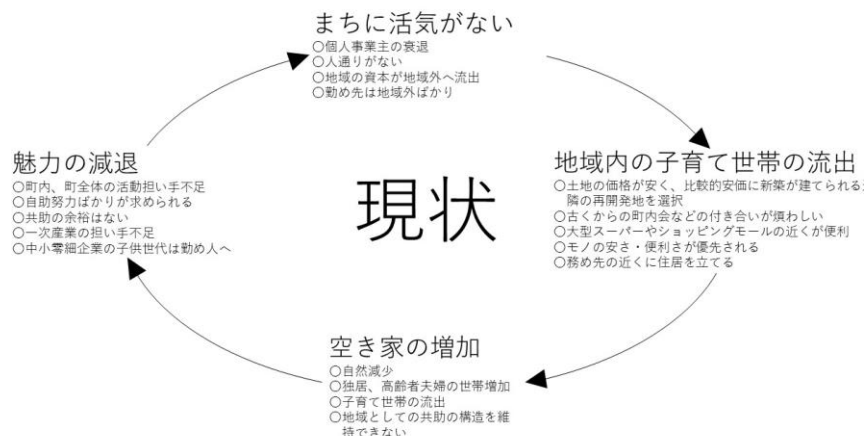
【図3 出雲市平田地域過去5年の世帯・人口の増減】

旧平田地域	世帯数			総人口		
	H31.1	R4.1	増減	H31.1	R4.1	増減
平田	2,386	2394	8	6,831	6596	-235
灘分	1,103	1108	5	3,407	3269	-138
国富	933	948	15	2,929	2867	-62
西田	583	555	-28	1,630	1521	-109
鰯淵	230	224	-6	632	574	-58
久多美	739	748	9	2,152	2074	-78
松山	432	443	11	1,339	1299	-40
東	851	827	-24	2,508	2378	-130
北浜	404	393	-11	1,069	991	-78
佐香	518	509	-9	1,328	1232	-96
伊野	416	421	5	1,266	1226	-40

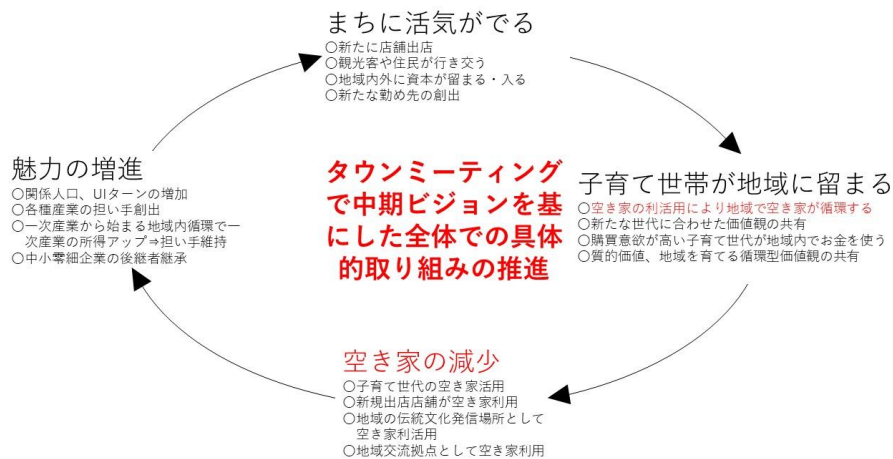
理由の一つには近年再開発が進み、土地価格が比較的安価な近隣の地域へ新築物件を購入し住居を移す子育ての増加があげられる。また上図の通り人口は減少しているが世帯数が増加している地域もあり、自然現象に伴い空き家が増加する一方で新築物件の増加による建物自体の増加という矛盾を抱えており、これらの問題の解決を図るには、今後も子育て世代に選ばれる地域、つまりまちの魅力化を図ることで若者を地域内にとどめ、さらに観光資源を有効活用した観光客誘致による地域内経済の活性化といった俯瞰的な方向性を定める必要があると感じた。

そして魅力化の一つに新築物件に比べて安価で入手できる空き家利用促進を掲げ、地域に住む住民の可処分所得の総額を引き上げることで、地域内にお金を一層循環させる仕組み化の構築を目指すことを目的に実施した。

【図4 平田地域の現状悪循環ループ】



【図5 タウンミーティング開催による好循環ループ】



○実施日時

2022年3月6日(日) 14:00~17:30

参加者 名(当法人含む)

○実施方法

参加者を6人グループに分け、KJ法を用いてグループワークを実施。テーマは地域に「増えてほしいもの」「減ってほしいもの」「変わらず残ってほしいもの」をそれぞれ付箋に記入し、テーマごとに分類し、各テーマの課題整理を行った。

○協力団体

出雲市観光協会 平田商工会議所 平田青年会議所 木綿街道振興会 本町商店街振興組合

○実施結果

【図6 連携体制の構築】





#### ④ 空き家情報の発信スペースとして多目的無料空間を常時提供

##### ○事業目的

上記イベント開催期間のみならず、常時利用できる空間として地域に解放することで空き家利活用の発信拠点として、当法人のチラシや資料を置き、空き家への関心を高めることを目的に実施した。

##### ○事業内容

入口15畳の土間スペースと続く小上がりからなる8畳二間の和室スペースからなる多目的スペースを無料開放し、FreeWi-Fiや自由に置くことが可能な図書スペースなどを設け、個人だけでなく団体によるイベント利用なども可能な空間として地域に提供した。

##### ○運営方法

###### 開放日時

月曜日から土曜日 8:00~18:00

###### 利用方法

土間スペースは自由に利用可能。和室スペースは電話予約をしてもらいその上で利用

※利用状況把握のため和室スペースも原則無料

##### ○実施結果

個人単位では学生のテスト勉強や電車の待ち時間、社会人のワーキングスペースとして利用いただいた。また、平田高校が積極的に地域住民向けのイベント会場として利用し、その地域住民主体のマルシェイベントや町内会でのワークショップ、ケーブルテレビの市長との新春特別番組収録会場として利用していただくなど多岐に渡って活用いただいた。

これらの結果、多目的スペース「すずかけ荘」での各種イベントが当法人の宣伝となり、当法人の認知度、信頼度の向上も効果があったと感じた。これらの取組全般が本年度の空き家に関する問い合わせの増加に寄与したと考える。

【写真 23 イベント①】



【写真 24 イベント②】



【写真 25 イベント③】



【写真 26 イベント④】



【写真 27 イベント⑤】



【写真 28 イベント⑥】



【写真 29 イベント⑦】



【写真 30 イベント⑧】



### (3) 成果

#### ○空き家の処分、利活用希望者の増加

本年度の活動を通して合計 20 件の空き家に関する問い合わせをいただいた。

うち、相談会で 14 件、地域内に活動を発信した結果の問い合わせが 6 件となった。また、相談会後に行った現地調査の結果も踏まえると、紹介可能な物件数が不動産情報も含めて 5 件、空き家の処分で困っているが対応を検討中の物件が 1 件と昨年度に比べて増加した。また、参加いただいた所有者、利活用希望者の希望および連絡先をデータベースで保管し、今後それぞれの希望に見合う状況となった際に即座に連絡が取れる体制を構築することができた。

その他、当法人の相談会の特色としては、県立大学の健康講座を同時開催し来場促進を行うなど、空き家問題の当事者である高齢者に興味関心をもっていただく取り組みを行ったことが挙げられる。これらは参加者から大変好評いただき当日来場できなかった方々から回覧板などを使ってもっと早く広報してくれといった希望も多く聞かれた。

#### ○空き家の活用について

昨年度平田高校生と共に開設した多目的スペースでは平田高校生や地域住民の方に利用していただき、多目的スペース及び当法人の空き家利活用について知っていただくことができた。

また、昨年度以前に空き家清掃、解体ワークショップを行った物件もなかなか利用希望者が見つからなかったが、情報発信を通じて関心をもって下さった方から利用希望があり、現在は手作り家具屋として新規出店するに至った。



### ○産官学民連携の構築

本年度に出雲市と空き家等対策に関する連携協定を結び行政との連携を構築したことをはじめ、相談会を通じて島根県立大学、ワークショップを通して平田高校、タウンミーティングの準備にあたり商工会議所や地域の中核団体、企業の方との連携を構築するに至った。また、タウンミーティングには地方銀行や市議会議員、県議会議員の方も参加していただき、まちの課題を共有し今後空き家問題をはじめ各種の具体的な取り組みを地域が一体となって推進する基盤を築くことができた。これらは直接的に空き家問題への解決には寄与しないが、当該地域は保守的な傾向が強く、発足当初は空き家利用に向けた準備を進めた矢先に町内からひどくバッシングを受けたりと冷ややかな目で見られることが多かった当法人の信頼度を向上させることに多大な貢献をしていると感じている。

空き家を探す現地調査を行った際にも我々の取組をケーブルテレビで知っており情報提供に対して協力的な住民が多くなったことを実感している。その上、今回の協力体制を通して空き家問題解決に向けた取組を一層加速させることができていると感じている。



### 3. 評価と課題

#### ① 一月に一回の空き家相談会の開催

##### ○開催頻度

当初、8月から2月までの期間で計7回の開催を想定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で8月、2月は中止、1月も開催内容を縮小しての実施となった。また、頻度としては、一回/月の開催ではなく、二カ月に一回、ないし三か月に一回程度の開催頻度が適当と感じた。実際に相談会を重ねるにつれ相談者の数は減少し、12月の開催時は時期的なものもあったかもしれないが、相談者数は0人だった。

具体的に居住、利用希望者に対して現地調査を行い情報提供することや、処分希望の方には空き家バンクへの仲介といった求められる対応を実施するには一定の時間を要するため、相談会の開催数を増やすことよりも、頂いた相談に対して相談者の希望に沿う対応を行い、顧客ニーズに応える基盤を構築していくことが必要と強く実感した。

実際、相談会後の空き家情報提供、空き家バンクへの仲介などある程度行ったが、マッチングに至らず、相談者数の減少は相談者の希望するニーズへの対応が不十分であったことも

理由として考えられるため、今後の課題としてあげられる。

広報の方法としては、今回新聞折り込みとSNSでの広報を行ったが、参加者は新聞折り込みを見て来場された方が多く、新聞折り込みの有効性を感じると同時に、年齢は子育て世代から中年層までの方で、当初想定していた高齢者の方は見受けられなかった。同時開催した健康講座についても、参加者からは大変好評いただいたが、周知方法として新聞折り込みと同時に行ったSNSをそもそも利用していない高齢者が対象であり、高齢者への周知方法については、町内会単位での回覧板など他の方法を検討していく必要があると感じた。来年度以降については講座を依頼した大学側から来年度も継続して開催させてほしいといった意向を受けており、今後の広報活動全般の方法については検討の必要がある。

## ② 平田高校生とのワークショップの実施

ワークショップ以外の機会でも平田高校生に自主イベントを実施してもらうなど、空き家の利活用について学生にも考えて頂く機会になった。また、学生との取り組みによって図書スペースやモニターを設置し、多目的スペースの利便性向上につながったと考える。しかし、高校生と携わった場所は昨年と同一箇所にとどまり、高校生の中には昨年同様に新たに別の物件で空き家改修を実施したいといった声も多かったが物件の確保が間に合わず行うことができなかった。

しかし、学校からは来年以降も引き続き地域課題を解決する授業の一環で空き家を取り上げたいとの意向も受けており、今後の空き家利活用の取り組みを行う担い手として、関係を構築できたことは評価にあげられる。

## ③ タウンミーティングの開催

第一に産官学民で協力関係が構築できたことが評価としてあげられる。しかし、当初は本年度に2回の開催を予定していたが、各種団体や個人へ協力を依頼すること、そして、具体的な取り組み内容を決めるための事前調査に相当な時間を費やしてしまい、さらに新型コロナウイルス蔓延防止措置の影響も相まって年度末の3月での開催となってしまった。その為タウンミーティング事業が一定の効果をもたらしたと判断できない結果となった。その点、今後の経過を追って評価していく必要がある。

しかし、当該地域のみならず全国の空き家問題は行きつくところ、まちの将来性や現状の在り方にたどり着くと考えている。その点、空き家という課題から始まるフォアキャストな対策と同時にまちの将来を地域一体となって考えていき、まちの将来像に空き家を活用するというバックキャストな取り組みこそ空き家問題の根本的解決に有効な手段であると確信している。当初よりタウンミーティングは年度を跨いだ2か年計画で準備を進めていたため来年度に本取り組みの成果を振り返りたい。

## ④ 空き家情報の発信スペースとして多目的無料空間を常時提供

個人単位での利用にとどまらず、地域住民、各種企業、個人が一体となったイベント、高校生の地域とつながる拠点として利用されるに至ったことは評価できる。しかし、現状運営費を補助金に頼っており、今後はこの多目的スペースを自走させるための仕組み作りが課題となる。現在は各種イベント開催時も利用料を徴収していないが空調の利用などで管理費は想定以上に多額になる場合もある。今後は有償とするか否かを検討していく必要があるが、まだ当該スペースの利活用が認知されてきた段階でもあり、来年度以降の利用状況をみて判断したいと考え

ている。

#### 4. 今後の展開

本年度、空き家問題に対して、従来型の相談会といった事業と並行して多目的スペースや空き地を高校生と一緒に改善していく取り組みを地域に発信し空き家問題全般への関心を高めるといった手段や、空き家問題を含めた地域の中期的なビジョン策定に向けた準備を進めてきた。

結果、相談会での相談案件のみならず、我々の活動を知ったことで相談会とは別に空き家に関する問い合わせをいただくことも多くなり、当法人がこの地域の空き家に関するプラットフォームの立場が少しずつではあるが確立されているように感じる。

その為、来年度も引き続き高校生との取り組みや県立大学と連携した相談会、本年度からの継続事業としてタウンミーティングの実施によるまちのビジョン策定を行い、これらの様子を広く発信することで基盤を強固にしていく。

また、空き家の現地調査を積極的に行い、現在空き家利用希望を考えている方と空き家を処分したい人をつなぎ合わせる事例を増やすとともに、当該地区に存在する空き家 600 件のうち少しでも多くを空き家バンクへの登録に繋げる働きかけを行い、これらの成功体験を通して空き家循環に向けた手段を確立していく。

地域住民の方々に我々の失敗も成功も広く知っていただき、物語のように見て頂きながら、自然と空き家に関する相談が当法人に向かってくる。そのようなプラットフォームを目指して来年度以降も事業の実施を行っていく。

■事業主体概要・担当者名			
設立時期	設立 2019年5月		
代表者名	理事長 吉岡 拓也		
連絡先担当者名	吉岡 拓也		
連絡先	住所	〒691-0001	島根県出雲市平田町 2621-5
	電話	090-3638-7375	
ホームページ	<a href="http://akiyasaiseisya.com/">http://akiyasaiseisya.com/</a>		